

音更川 進む復旧

昨年9月の大雨被害から1年。堤防が一部壊れる被害を受けた音更川では復旧工事が進められ、堤防前に新たな護岸も追加されている。川を管理する帯広開発建設部は有識者を交えたワーキンググループの会合を今年度2回開き、音更川全体の新たな治水対策を検討している。音更町でも関係機関との情報共有や住民の防災対策が進んでいる。

大雨 堤防損壊から1年

昨年9月2～7日に降り続いた大雨で、音更川左岸の堤防(音更町東音更幹西1線付近)が約150㍍、幅約15㍍にわたって崩れた。音更町は30年ぶりとなる避難指示・勧告を出し、最大66世帯、151人が避難した。

帯開建は崩れた堤防の後方に仮の堤防を築いて当面の安全を確保したが、今年4月に本格的な復旧に着手。堤防を元通りにするだけでなく、前面に315㍍にわたってコンクリートを貼り付けた新たな護岸を取り付けている。

護岸の前面には重さ2トンのブロック3200個を16列に配置した「水制工」を整備。水の流れを

護岸追加、全体の新治水策検討



音更川の堤防流出箇所前面に整備されている護岸と水制工。音更川が左側、堤防が右側(5日、塩原真撮影)

変えて勢いを弱め、川の蛇行を抑えて堤防へのダメージを防ぐ。工費は約3億7000万円。年内の完成を予定している。堤防が壊れた原因について帯開建は2月、長時

間にならって増水が続いたことを要因とする分析を公表。音更川が蛇行しやすく、曲がった川の流

れが堤防に当たり、堤防の下側から浸食されたことも損壊につながったと

音更町は昨年11月に上土幌、土幌の流域3町や河川管理者、糠平ダムを管理する電源開発と音更川流域関係機関連絡協議会を組織。堤防流出時に帯開建がダムの放水量を抑えるよう要請した経緯もあり、情報の共有を図る。

今月行われた同町木野地区の避難訓練(連合町内会主催)では避難所開設の受け付け訓練を初めて行い、避難者のスムーズな把握に努めるなど、防災対策も進んでいる。破損した堤防の最も近くに住む農業山岡豊さん(60)は「自然の力には勝てないことを肝に銘じて生活していくことだ。役場や開発は危機管理をしっかりしてほしい」と求める。

一方、同時期の大雨で氾濫した芽室川は5月までに道が復旧を完了。今後、水の流れる能力が不足している地域で掘削などの対策工事も予定している。

(真尾敦、原山知寿子)